

科目コード	34500	科目名	特別支援教育（令和元年度入学生より）	単位	1
-------	-------	-----	--------------------	----	---

次の設題について、1,500字程度でレポートを作成してください。

設 題 1

注意欠如・多動症の診断基準を説明してください。次に、注意欠如・多動症を持つ子どもの心の育ちについて、いくつか例を挙げながら説明してください。最後に、こうした心の育ちが見られるときに想定される「特別な教育的ニーズ」と、そのニーズに応える支援について、あなたの考えを具体的に書きなさい。

— 作成の手引き —

- ① 注意欠如・多動症の診断基準については、第2章および巻末資料に記載されています。まず、正しい診断基準を記述してください。文部科学省による定義と、国際的診断基準（DSM、ICD）では異なる部分がありますので、本文中にも引用元を明記して記載してください。できれば、第2章〈心と体の育ち〉も踏まえて、診断基準に記載された障害（困難）の具体例を挙げてください。
- ② 第2章「b.注意欠如・多動症の心と体の育ち」を良く読み、複数の例を挙げて説明してください。テキストの例を利用して構いませんが、レポートの記述として適合するように文章化してください。具体的には、箇条書きのまま記述することは避けてください。補足説明だけを取り上げて記載すると、誤りとみなされる場合がありますので、内容を良く理解した上で、中核的な部分を記述してください。他の文献、自身の経験等から記載しても構いません。
- ③ 「特別な教育的ニーズ」については、この設題の「学習の目的・ねらい」項目等も参照して、正しく理解してから書いてください。この項目は、テキスト中には具体的な記述がありませんので、あなた自身で考えて書く必要があります。テキストの抜き書きだけでは解答できませんから、注意してください。また、「心の育ち」を踏まえて記載する必要がありますから、注意してください。最後に、ニーズに応える支援について書きますが、これは注意欠如多動症を持つ人に一般的に行われる支援や、抽象的な心構えを述べるだけではいけません。あくまで、皆さんが想定したニーズに応える支援である必要がありますから、無関係な内容にならないようにしましょう。
- ④ 参考文献については、3つ以上示してください。参考文献の記述の方法は、『レポート・科目試験のしおり』【通信授業の学習－テキストの学習ならびにレポート作成－】「レポート作成上の注意」⑧に従って、文献間の表記法は統一するようにしてください。本設題の「参考書」欄の記述方法も参考にしてください。

参 考 書

野口和也・渡辺隼人・須藤邦彦・渡邊孝継・大橋智・成瀬雄一・前川洋子（平成31年）特別支援教育、豊岡短期大学通信教育部
 文部科学省（平成30年）幼稚園教育要領解説、フレーベル館
 厚生労働省（平成30年）保育所保育指針解説、フレーベル館
 内閣府（平成30年）幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、フレーベル館

【学習の目的・ねらい】

神経発達症の一つである注意欠如・多動症を題材としながら、診断名からどのような状態が予想されるかを具体的に考え、更に、そうした状態像にはどのような「特別な教育的ニーズ」があるかを推測し、そのニーズに応える支援について考える課題です。この一連の流れは、背景となる「困難」は違ってもかもしれませんが、特別支援教育を行う上で極めて基本的な過程だと考えられますから、レポート課題を通してこの基礎を習得することで、実際の保育場面にも役立つことをねらいとしています。

また、「特別な教育的ニーズ」という言葉を、この課題を通して確実に理解するというのもねらいの一つです。

まず、「ニーズ」とは、要求や必要性を意味する言葉で、これは日常的にも使われます（「顧客のニーズに応える」など）。「しっかり特別支援教育について学びたい」というような「～したい」「～が欲しい」という形であることが多いですが、「文章表現が苦手なのでレポートを書きたくない」といったこともニーズの一つです。なお、この例から分かるように、すべてのニーズは「応えられる」「応えるべき」ものであるとは限りません。

このようなニーズのうち、「教育」に関するニーズが「教育的ニーズ」です。「授業の内容を簡潔にまとめたプリントが欲しい」とか、「実践的な内容を深く学びたい」とか、そういう希望・要望が「教育的ニーズ」と言えます。

ここに、「特別な」がつくと、「障害や貧困、外国とつながりがあること」などによって生じる「特徴」（困難と言い換えても良いでしょう）が原因で生じる、教育に関するニーズということになります。例えば、視覚障害では、まず「目が見えない」という「特徴」（困難）があります。このような「特徴」がある人は、教育の時に何が必要でしょうか？ たとえば「自分の荷物かごが手触りでわかるように、他の人とは違う素材にしてほしい」などと考えるのではないのでしょうか。こうしたニーズは「特別な教育的ニーズ」と呼べます。これに対応した支援としては、荷物かごやお道具箱に同じ手触りのシールを貼って、触っただけで「自分のものだ」と分かるようにすることなどが考えられますね。このように、順を追って説明できるように学習してください。

【学習の進め方】

まず、注意欠如・多動症の診断基準および心と体の育ちをテキストから読み取って学習します。

次に、これらの心の育ちから、どういったことが「ニーズ」になりうるかを考え、表現してみましょう。場合によっては、「～したくない」というのも立派なニーズの一つですから、「〇〇という特徴があることから、～したくないという特別な教育的ニーズがあると考えられる」といった表現でも構いません。もちろん、「△△という特徴があることから、～したい／～が欲しいという特別な教育的ニーズがあると考えられる」と述べてくれても良いです。

最後に、そのニーズに応える支援を考えますが、これは「保育の現場」で行われるものだと思ってください。Web等で調査をするのは構いませんが、その際は、対象年齢が何歳くらいかを良く見定めましょう。学齢期や就労段階にある注意欠如・多動症のある方に望ましい支援を書いても、この課題には適していないかもしれません。また、注意欠如・多動症には投薬治療が行われることがあります。その判断は医師が行うもので、保育士/幼稚園教諭が判断・投薬指示を出せるものではありません。どのようなニーズであれ、「対応するために投薬治療を行う」というのは「保育の現場」で行われる支援としては認められませんので、注意してください。なお、投薬治療が無意味であるとか、不適切であるという意味ではありません。あくまで、保育者にはその「支援」を実行する医療資格や権限がないという意味です。ニーズと支援が結びついているかも良く検討しましょう。

【学習のポイント等】

実際の保育現場では、様々な特徴を持つ子どもがおり、皆さんが特徴を「選べる」ということではないのですが、とりあえず一貫したレポートを書き、基本的な流れを掴むためには、「ニーズ」や「支援」が想定しやすい特徴（心の育ち）を「選択」して記述しても良いです。やみくもに書き進めるのではなく、まず最後まで首尾一貫したテーマで書ききれぬかを考えてみることを強くお勧めします。ループリックにも「前の項目で示した内容」から考えられる／「前の項目で示した内容」に応じた、ということが評価基準として挙げられています。

テキスト、書籍やWeb、映像作品からも学ぶことができますので、文献調査等もポイントになります。自分自身の家族や、これまでの経験から学んだことを踏まえて書いても良いです。ただし、「多くの注意欠如・多動症の方に共通すること」と「その方特有の個性」を混同しないよう、気を付けて記述しましょう。